

火落菌検査液使用の手びき

(S I 検査液)

特 徴

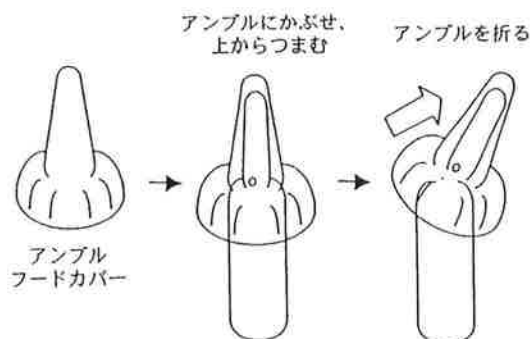
本検査液は火落菌および腐造菌を検出するのに適した検査液です。

- (1) 本品はアルコール分10%を含んだ検出培地で、殺菌の必要はなくアンプルのまま使用できます。
- (2) 火落菌や腐造菌が存在すればアンプル検査液は混濁するか沈殿を生じます。
- (3) 開瓶しない本検査液は冷暗所（5～10℃）にて長期貯蔵できます。

使 用 法

- (1) 手、指は良く洗い、アンプルの表面をアルコールに浸したガーゼ等で良くふいてからカットしてください。

アンプルフードカバーの使い方



- (2) アンプルを図の様にカットしたら直ちに下記の様に少量の試料を加えた後、図の様に入口をセロハンテープで二重に良くふさぎ27~30℃のふ卵器（または麺室）にて培養します。液が混濁した場合は火落菌の存在を示します。



検出所要日数は試料中の火落菌量によって異なりますが普通3~7日です。
混濁と細菌との関係は実施例を参考にしてください。

清酒、割水用水 } … 約 1 ml
タンクの洗い水等 }

庫内環境検査… { 土などは耳かき (小スパーテル)
1杯程度

ご注意 アンプル開瓶時、アンプルの首がキズ線通りに切れないで、鋸状になったりガラス片が飛散することがありますので充分ご注意下さい。

実施例 1

菌 株	培 養 日 数		
	3	5	10
真性火落菌(ヘテロ型)	+	+++	+++
真性火落菌(ホモ型)	+	+++	+++
火落性乳酸菌(ヘテロ型)	+	+++	+++
火落性乳酸菌(ホモ型)	+++	+++	+++
<i>Leuc.mesenteroides</i> (腐造性乳酸菌)	-	-	-
<i>L.casei</i> (腐造性乳酸菌)	-	-	+
<i>L.leichmannii</i> (腐造性乳酸菌)	-	-	+
<i>L.plantarum</i> (腐造性乳酸菌)	+	+	+

菅間ら：醸協，65，(8)720-725，(1970)より引用

(注) 培養試験を行なった結果，火落菌の存在が確認された使用ずみの検査液は一度煮て，火落菌を殺してから棄却してください。